

平成30年度 事業報告書

近年の不安定な気象条件は、青果物の生産に大きな影響を及ぼしているが、平成30年産も2月の大雪に始まり、干ばつ、台風など、度重なる災害に見舞われた年となった。本県産の青果物の生産・出荷状況については、春作ではたけのこが表年のため前年の数量を大幅に上回ったものの、昨年大雪により、キュウリ、トマトを中心としたハウス作物が生産減となったほか、カボチャが着果期の低温により前年の数量を下回った。

夏秋作では、7月以降の猛暑・干ばつによりトマト、ネギが作柄不良となったほか、秋冬作では9月の降雨、日照不足の影響を受けたブロッコリーやだいこんで生育が遅れ、平年よりもひとまわり小さ目となる出荷品目が多かった。しかし、11月以降は温暖な天候となり、越冬作型を中心に順調な出荷となった。

販売については、気象条件にも恵まれたスイカが過去最高の単価となったほか、カボチャも競合産地の不作により高値での販売となった。一方、春トマトや11月期のだいこんなどは、競合産地の出回りも多く価格は低迷した。

これらのことから、本制度対象となる野菜類（果実的野菜、菌茸類を含む）の当年度共販実績は、出荷量25,296 t（前年比93%）、販売単価239円/kg（前年比107%）、販売金額6,033百万円（前年比100%）となった。

こうしたなか、交付金の支出については、一般業務のちんげんさい・ばれいしょ・きゅうり・だいこん・ねぎで3,471千円（前年同期1,683千円）、特定業務のこまつな・夏秋トマト・夏秋きゅうり・秋冬だいこん・秋冬ねぎで3,757千円（前年同8,245千円）となった。